

10

編集後記

社会学部 4 年

小川 真科

本誌を最後までお読みいただき、ありがとうございます。

去年の研究誌もご覧いただいている方はお気づきかもしれませんが、今年は編集にあまり時間を割けなかったこともあり、編集のフォーマットとしては去年のものをほぼそのまま流用するという形になってしまいました。「シンプルで見やすいものを」という編集スタイルは変わらず目指しているつもりではありますが、改めて見返していると（今回の分だけでも）全体的に暗めの雰囲気になってしまっているなど思うところがあるので、今後も編集技術については日々勉強を重ね、いろいろな発想を柔軟に取り入れたうえで自分のスタイルを突き詰めていくようにしないといけないと感じています。

さて、本年度の一橋祭は実に 3 年振りの実地開催となり、ようやく皆様に直接展示をご覧いただくことが叶いました。

長引くコロナ禍の影響により、まだまだ活動に制約がかかっている面も少なくありませんが、まずは一橋祭での展示だけでも以前のような形で実施することができるようになったのも、ひとえに数少ない活動機会の中でもとても精力的に活動に参加してくださる現役部員の皆さん、また日頃からさまざまな形でお力添えくださる OB・OG の皆様のご協力のおかげです。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

今後とも、一橋鉄研をどうぞよろしく願いいたします。